

厚生労働科学研究費補助金（腎疾患対策研究事業）
戦略研究（腎疾患重症化予防のための戦略研究）分担研究報告書

かかりつけ医／非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する
慢性腎臓病患者の重症化予防のための診療システムの有用性を検討する研究

—新潟県における活動報告—

分担研究者 成田 一衛 新潟大学医歯学系 教授

研究要旨：新潟県では3カ所の地区医師会と、37名のかかりつけ医、専門医24名の体制で本研究に参加している。うち、新潟市医師会および、北蒲原・新発田市医師会は介入A群に割り付けられ、刈羽群・柏崎市医師会はB群となっている。CKD患者の登録数はそれぞれ、92名、34名、39名であった。介入方法の相違により、A群の方でB群より脱落・同意撤回が少なくなることが予想されるが、B群になった刈羽群・柏崎市では現在の所、かかりつけ医、腎臓専門医のみでなく管理栄養士や看護師等の協力により、高い通院・治療の継続率が得られており、治療効果にも期待できると考えられる。一方、平成22年度内に新潟県では、2回のFROM-Jの地区説明会以外にも、一般市民向けの啓発活動を精力的に展開した。計6回の慢性腎臓病の早期発見、予防、ならびに治療に関する市民公開セミナーを開催し、のべ1,277名の一般市民の参加を得た。各地域の内科医、管理栄養士、看護師がそれぞれの立場から分かりやすい講義をおこなうことにより、一般市民の腎臓病に対する理解を広めることができた。また同時に、この活動を通じて、それぞれの地域における医療関係者側の慢性腎臓病に対する理解の向上と、対策へのモチベーションの向上に寄与することができたと考えている。

A. 研究目的

慢性腎臓病（CKD）の重症化を防ぐためには、CKD患者の診療過程における腎臓専門医と非専門医との連携を強化・補助するとともに、管理栄養士をはじめとする多職種からの介入が必要である。本分担研究は、その目的で行われている腎疾患重症化予防のための戦略研究（FROM-J）の一地区として活動し、本研究の推進に寄与するとともに、CKDの早期発見と早期介入に関する一般市民に対する啓発活動を展開することである。また同時にこの活動を通じて、各地区の医療関係者の理解と意欲の向上に貢献する。

B. 研究方法

新潟県内では新潟市、新発田北蒲原、および刈羽群・柏崎市の3ヶ所の郡市医師会が本研究に参加した。これらのうち、刈羽群・柏崎市医師会が介入B群に割り付けられ、他の2医師会は介入A群となった。参加するかかりつけ医は37名、腎臓専門医は24名が登録された。

登録されたCKD患者は新潟市で92名、新発田北蒲原で34名、刈羽群・柏崎市で39名であった。平成22年度、このFROM-Jの地区説明会を2回開催した。

また、一般市民を対象としたCKDの早期発見と治療に関する啓発を目的とした公開セミナーを、合計6回開催した。それぞれの概要、テーマ、参加者数を下記に示す。

- ・2010年5月29日 県央地場産センターメ

ッセイピア、「あなたの体のかん腎なお話」250名

- ・2010年9月11日、パストラル長岡「あなたの体のかん腎なお話」228名
- ・2010年9月19日、村上市教育情報センター「あなたの腎臓だいじょうぶ？」145名
- ・2010年10月2日、新潟ユニゾンプラザ「今年もやっぱり天地腎」383名
- ・2010年10月16日、阿賀町公民館「七福腎」146名
- ・2010年10月31日、出羽庄内国際村ホール「鶴岡天腎祭」125名

C. 研究結果

腎臓専門医の他に各地域の内科医、管理栄養士、看護師がそれぞれの立場から分かりやすい講義をおこなうことにより、一般市民の腎臓病に対する理解を広めることができた。

D. 考察

この活動を通じて、それぞれの地域における医療関係者側のCKDに対する理解の向上と、対策へのモチベーションの向上に寄与することができた。

E. 結論

今後も本研究の推進と地域の啓発活動を進めることを通じて、わが国のCKD対策に寄与したい。

F. 研究発表

- (1) 論文発表 学会発表 なし

G. 知的財産の出願・登録状況 なし

厚生労働科学研究費補助金

腎疾患対策研究事業

腎疾患重症化予防のための戦略研究

かかりつけ医／非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する

慢性腎臓病患者の重症化予防のための

診療システムの有用性を検討する研究

平成22年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 山縣 邦弘

平成23 (2011) 年 3月